

令和6年度（2024年度） 北海道室蘭聾学校グランドデザイン



学校教育目標
◆ 明 り い 子 供 （生きたことばを身につけた明るい子供）
◆ 強 い 子 供 （丈夫な体と強く豊かな心をもつ子供）
◆ 考 え る 子 供 （自分の考えをもち進んで学ぶ子供）

目 指 す 教 師 像
○ 幼児児童生徒の気持ちを大切にする教師
○ 専門性や指導力向上のため、常に学び続ける教師
○ 創造性あふれ、前向きに挑戦しようとする教師
○ 互いに支え合いながら組織的・計画的に業務を推進する教師
○ 豊かな人間性と誠実さをもち、信頼される教師

本 校 の 目 指 す 学 校 学 校 像
(1) 学ぶ喜びを知り、学ぶ力が身に付く学校
(2) 社会性が育つ学校
(3) ろう教育にかかわる専門性が確立した学校
(4) 学習する環境が整った学校
(5) 保護者、地域から信頼される学校



幼児児童生徒の実態
・生活言語を拡充し、学習言語を育てる必要がある。
・経験に基付いた知識を身に付ける必要がある。
・具体的思考を深め、抽象的思考に導く必要がある。
・判断力や自己決定力を育てる必要がある。

【教育の方針】 「子供たちを信頼し、子供たちの力を引き出し伸ばす教育を目指す。」	【経営の方針】 「心理的安全性を高め、解決志向で協働する学校経営を目指す。」
令 和 6 年 度 の 重 点 項 目	
①学力の育成 ②「生きる力」育成 ③人材育成・専門性の向上 ④協働体制による業務の推進 ⑤安心・安全の確保 ⑥保護者地域との連携 ⑦センター的役割の推進	

昨年度の課題
・ 幼・小・中学部の一貫性のある指導
・ ICTを活用した教育の一層の推進
・ 重複障がい学級の学習計画や活動内容の見直しと改善
・ 地域とのかかわりの見直しとコミュニティスクールの推進

育成を目指す資質・能力（何ができるようになるか）			
各学部	明るい子供	強い子供	考える子供
幼稚部	生きたことばが身に付く。	丈夫な体を作り、健康で安全な生活ができる。	自分で行動する意欲と力が身に付く。
小学部	言語活動を充実し、豊かな心情が育つ。	望ましい生活習慣を身に付け、心身は調和的に発達する。	分かる喜びを味わい、主体的に学ぶ意欲が育まれ学力が向上する。
中学部	言語活動を充実し、自主的に学ぶ姿勢を身に付けた生徒に育つ。	心身の健康が保持・増進され、豊かに安全な生活をしようとする実践的な態度・習慣を身に付けた生徒に育つ。	自他の立場を理解し行動できる心が育ち、社会生活に積極的に参加する自主・自立の態度をもった生徒に育つ。

寄 宿 舎（今年度の重点）
(1) 教育的ニーズや障がいの状態、発達段階に応じた生活習慣の確立や言語指導に努める。
(2) 健康で安全に日常生活を送ることが出来る指導や環境作りに努める。
(3) 豊かな経験を通して、興味や関心の幅を広げ、新たな気づきを得ながら社会参加できる力の育成に努める。

指導体制の充実 (実施するために何が必要か)
・ 地域資源を活用した体験学習と外部人材を活用した教育活動の推進

資質・能力の育成に向けた具体的な取組（何を学ぶか・どのように学ぶか・どのように支援するか）				
取組事項	学部	明るい子供	強い子供	考える子供
内容・方法 （例）	幼稚園部	いろいろな経験を通して、言葉に対する感覚を豊かにする。	体を十分に動かして遊び、進んで運動できるようにする。	自分なりに考え、自分の力でしてみようとする態度を育てる。
	小学部	様々なコミュニケーション手段の選択とその活用から、言葉の理解や意思の相互伝達能力の育成に努める。	日常的教育活動との密接な関連を図りながら、広い視野に立って行動できるよう学級及び学部全体で適切な指導に努める。	学校生活における諸問題を解決したり、諸行事の取り組みを通して自主的に課題に取り組んだりする態度の育成に努める。
	中学部	個々の障がいの状態や実態に応じて配慮し、より効果的な自立活動の指導形態や指導内容の工夫・改善を図っていく。	身体の発達と心の変化を把握し、心身の健康の保持増進を図るとともに、スポーツを楽しむ意識を高める。	課題解決のために、必要な情報を集めたり、調べたり、まとめたりする中で、自分の意見や考えをもたせる。

家庭・地域との連携・協働 (何が必要か)
・ 積極的なPTA活動
・ 学校運営協議会の活用
・ 町会等との連携

資質・能力の育成に向けた教育活動の検証と評価、改善	
教育活動の改善に向けて	・ 年度末反省及び行事ごとの反省等において、学部や寄宿舍、分掌等で教育活動についての検証を行う。また、学校評価において、教職員及び保護者により教育活動についての評価を行う。 ・ 検証及び評価を十分に行い、次年度に向けての改善策の検討を図る。